

藤岡市助年譜

村夏至作成
181213

年	年齢	学校・仕事	主な出来事	電気事業開発の流れ	社会の動き
1852(嘉永5)					
1853(嘉永6)					
1854(嘉永7)					
1855(安政2)					
1856(安政3)					
1857(安政4)	0		1857年4月8日(安政4年3月14日)、藤岡家(現・岩国市錦見)に長男として誕生。		
1858(安政5)	1				
1859(安政6)	2				
1860(安政7)	3				
1861(万延2)	4				
1862(文久2)	5				
1863(文久3)	6				
1864(文久4)	7		第一次長州出兵		
1865(元治2)	8	養老館の素読寮	岩国藩校・養老館の素読寮へ入学。		
1866(慶応2)	9		1866年3月14日養老館焼失。素読寮継続。第二次長州出兵		
1867(慶応3)	10		1867年11月9日(慶応3年10月14日)大政奉還, 王政復古		
1868(慶応4)	11				
1869(明治2)	12				
1870(明治3)	13	兵学校	1870年1月(明治2年12月)兵学校入学を命じられた。(学制改革による)		
1871(明治4)	14	小学、英国語学所	2月藩立岩国学校設立, 小学入学。7月岩国英国語学所開設, 8月入学。		
1872(明治5)	15	英国語学所	岩国英国語学所にてスティーブンスに学ぶ。		
1873(明治6)	16		8月スティーブンスが退任し、市助が代講した。		
1874(明治7)	17	外語学校、予備校	2月上旬指示、3月上旬、4月外国語学校入学, 10月工学寮予備校入学。		
1875(明治8)	18	工学寮大学校	4月工学寮(後の工部大学校→東京帝国大学→現・東京大学)へ3期生として入学。		
1876(明治9)	19				
1877(明治10)	20	工部大学校	工学寮大学校⇒工部大学校改称		
1878(明治11)	21		3月25日国内最初のアーク灯点火(エアトン教授指導)後に電気記念日となる。	①電灯(発電、送電、電球)開発 東京電力㈱の源流	
1879(明治12)	22				
1880(明治13)	23		入門書『電信初歩』著作と「英国富盛原因 工業沿革記略」の翻訳。		
1881(明治14)	24	工部大教授補	5月工部大学校第一等卒業、同校の教授補になる。		
1882(明治15)	25	工部大助教授	電気参考書『電信小誌』発行, 国内初の公衆へのアーク灯点灯(銀座), この年結婚。		
1883(明治16)	26		アーク灯用発電機を設計, 三吉正一(岩国出身)の工場で作成。		
1884(明治17)	27	工部大教授	費府電気博覧会で電気科学から電気工学への変化を知る。エジソンと会う。	第1次洋行 電気工学全般調査 84/8月~12月	
1885(明治18)	28		国内初の白熱電灯用発電機設計, 三吉工場で作成。		
1886(明治19)	29	帝大助教授	3月帝大の助教授。12月退職し東京電灯技師長となり皇居電灯工事に専念。	第2次洋行 電灯調査 86/12月~87/5月	
1887(明治20)	30	東電技師長、講師	2月米国電灯協会にて「日本の電気工業の進歩」講演。10月帝大講師を委嘱。		
1888(明治21)	31		腸チフス病で一時危篤。東京に最初の単線架空式電車鉄道の布設出願。		
1889(明治22)	32		1月明治宮殿電気工事竣工。国内初の白熱電球試作(三吉らと)。前田と交直論争。		
1890(明治23)	33		電車運転, エレベータ設置, 白熱舎(現・東芝)設立, 電気鉄道期成同盟会。	②電車開発	
1891(明治24)	34		工学博士を授与される。		
1892(明治25)	35		東電1万燈祝典。日本電灯協会会長。英国電気学会名誉書記。京都で水力発電竣工。		
1893(明治26)	36		日本電灯協会にて「電気鉄道の沿革」講演。	③水力発電、高圧送電開発	
1894(明治27)	37		国内初の電車モーターを設計, 三吉工場が製作。翌年、京都で電気鉄道の営業開始。		
1895(明治28)	38				
1896(明治29)	39		白熱舎解散, 東京白熱電球製造㈱設立。小田原電鉄取締役として電気鉄道計画。		
1897(明治30)	40		交流三相式蔵前中央変電所竣工。東京馬車鉄道(現・都電)の電化を計画。		
1898(明治31)	41	電球製造社長	2月小田原電鉄の為洋行。6月全米電灯協会参加。12月白熱電球製造社長就任。		
1899(明治32)	42	東京電気社長	東京白熱電球製造㈱を東京電気に改称。京浜、阪神の技術顧問。	第3次洋行 電車調達 98/2月~12月 小田急の源流	
1900(明治33)	43		東京電気鉄道技術顧問		
1901(明治34)	44				
1902(明治35)	45		東京市街鉄道会社技師長		
1903(明治36)	46				
1904(明治37)	47				
1905(明治38)	48		東京電気とゼネラル・エレクトロニック社の提携。		
1906(明治39)	49		深川発電所工事竣工(蒸気タービン採用), 吉川重吉ら岩国同郷者と洋行。	第4次洋行 電気産業 06/3月~9月	
1907(明治40)	50		岩国電気軌道社長		
1908(明治41)	51				
1909(明治42)	52		岩国で中国地方初の電気鉄道開業(~1929)。桂川水力発電工事竣工, 77Kv高圧送電。		
1910(明治43)	53		山口と広島の間にある小瀬川の水力発電所の調査・設計を手配。		
1911(明治44)	54		藤岡の計画による猪苗代水力電気会社設立。		
1912(明治45)	55		脳溢血を患う。		
1913(大正2)	56				
1914(大正3)	57				
1915(大正4)	58				
1916(大正5)	59		寿像建設落成		
1917(大正6)	60				
1918(大正7)	61		3月5日, 風邪から肺炎を併発し, 逝去。勲四等瑞宝章を授与。		
1919(大正8)			英国電気学会誌に追悼記事掲載		
1920(大正9)			小瀬川の水力発電所, 岩国とその近隣に電力供給を開始。		

『日本の電気界の父 藤岡市助図鑑』(岩国徴古館発行)より編集したものを、
藤岡市助研究者の下妻誠一郎氏に加筆修正していただき調製しました。

1939(昭和14)年
合併して東京芝浦電気㈱へ

山尾庸三(1837~1917) 日本の工業の父。山口市出身。長州ファイブとして英国密留学。工部大学校創立者。障害者教育の創始者。工部卿。

三吉正一(1853~1906) 岩国出身。日本初の電気機器製造会社である三吉電機工場を経営

重宗芳水(1873~1917) 岩国出身。三吉電機工場勤務を経て、1897年に明電舎を創立。

トーマス・エジソン(1847~1931) アメリカの発明家、起業家。

ヘンリー・ダイヤー(1848~1918) 日本における西洋式技術教育の確立と日英関係に貢献。工部省工学寮大学校初代都検(実質的な校長)

ウイリアム・エドワード・エアトン(1847~1908) 1873年から5年間、工部大学校で物理学、電気工学を教える。

ステイブンス(1847~1878) 岩国英国語学所で2年間教える。

中製作所(1875~1893) 田中久重

↓ 芝浦製作所(1893~1939)

東京白熱電球製造㈱

東京電気(1899~1936)

社会の動き
ペリー来航
安政の大獄
マクスウェル電磁方程式
大政奉還
明治維新
ジーメンス、グラムの発電機
東京・横浜間で電信開始
明治4年学制大改革
新橋-横浜間鉄道開通
工学寮最初の生徒募集
電話機発明(ベル)
蓄音機発明(エジソン)
エジソン電気照明会社設立
ベルリン博覧会電車展示
フィラデルフィア電気博覧会
第一次伊藤内閣成立
大日本帝国憲法発令
第一回帝国会議開会
日清戦争(~1895)
X線の発見
広島-徳山間鉄道開通
日露戦争(~1905)
特殊相対性理論
岩国に中国地方初の電気鉄道開業(1909~29)
第一次世界大戦(1914~18)